

殺虫剤

メタアルデヒド粒剤

スクミノン[®]

農林水産省登録 第 22153 号

性状：淡褐色粒状

毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

有効年限：3年

包装：2kg × 8

有効成分：メタアルデヒド・・・・・・・・・・10.0%

スクミノン[®]はサンケイ化学㈱の登録商標です。

特長

- 主に食毒で作用し、スクミリンゴガイに対し急速な麻痺を引き起こします。摂食したスクミリンゴガイは、死亡するか、異常行動を示すようになり、水稻を食害しません。
- スクミリンゴガイに対する誘引性を持っており、処理直後に誘引効果を示します。摂食したスクミリンゴガイに対し、極めて即効的な作用を示します。
- 人畜に対する安全性は高く、普通物です。有効成分の溶出を極力抑えるように製剤化されており、魚介類に対して影響の少ない薬剤です。

適用病害虫名および使用方法

作物名	適用病害虫名	10 アール当たり 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	メタアルデヒドを含む 農薬の 総使用回数
稲	スクミリンゴガイ	1～4kg	収穫 60 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
れんこん		4kg	収穫 45 日前 まで			

使用上の注意事項

- スクミリンゴガイは稲苗の柔らかい時期に加害するので、は種後または移植後、被害発生前に散布してください。
- 本剤は湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は落水やかけ流しはしないでください。
- スクミリンゴガイの発生が多く認められる場合、登録の範囲内の多めの薬量で使用してください。
- 水田以外には絶対に使用しないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は、農薬用マスクなどを着用してください。
- 使用後は、うがいをしてください。
- 犬、猫などのペット類や家畜、家禽等が多量に食べると死亡するおそれがあるので、食べる可能性のある場所での保管及び使用はさけてください。

スクミノン技術情報

スクミノンの薬効試験成績

即効性 - 1

2000年 愛媛県農業試験場

試験条件

水 深：5cm
 処 理 量：4kg/10a
 供 試 貝 数：78個体/m²(平均貝高2.6cm、平均貝重:5.4g)

経過時間	スクミリンゴガイの状態	
	麻痺状態	死滅(仮死を含)
30分後	65.0%	35.0%
24時間後	—	100%

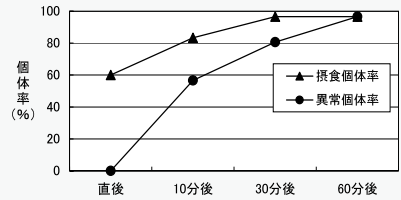
即効性 - 2

1999年 サンケイ化学(株)

試験条件

試 験 場 所：現地圃場
 試 験 方 法：3粒をまとめて配置し、5cm離れた位置に貝を放飼

供 試 貝 数：30個体(現地採集個体)

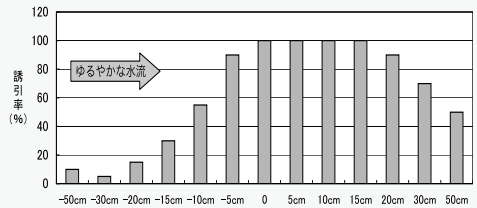


距離別誘引率

1999年 サンケイ化学(株)

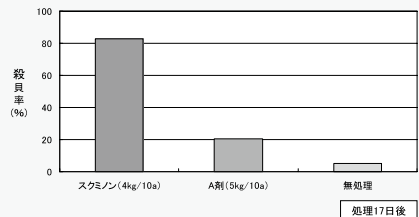
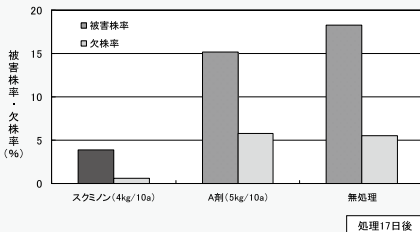
試験条件

試 験 場 所：現地圃場
 試 験 方 法：3粒をまとめて配置し、所定の距離に貝を放飼
 供 試 貝 数：20個体/区(現地採集個体)



被害防止効果、殺貝率

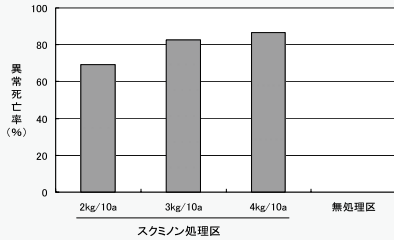
試 験 場 所：熊本県農業研究センター農産園芸研究所内圃場
 供 試 作 物：水稻(ユメヒカリ)、播種(5月16日)、移植(6月23日)
 処 理 月 日：6月23日(移植直後)
 試 験 規 模：圃場
 発 生 程 度：中発生
 処 理 方 法：動力散粉機にて均一に処理
 調 査 方 法：試験区内の300m²を選び、定期的に食害株数、欠株数を調査
 処理17日後に試験区内のスクミリンゴガイの生死を調査



スクミノン技術情報

処理量別の効果

試験期間：2008年5月15日～
 試験場所：鹿児島県霧島市国分準人
 試験区：1区 75頭 15m²(3×5m)2連制
 試験条件：野外試験、マーク具使用、水深5cm
 移植日：5月15日、薬剤処理日・放飼日：16日
 実施機関：サンケイ化学(株)



スクミノンゴガイ殻高別の効果

平成9年 熊本県農業研究センター
 試験期間：1993年6月23日～
 試験場所：熊本県農業研究センター
 ：農産園芸研究所内圃場
 移植日：6月23日
 薬剤処理日：6月23日(移植直後)

17日後殺貝率

薬剤名	処理量 (/10a)	殻高別殺貝率 (%)			
		0.5～ 1.0cm	1.1～ 1.5cm	1.6～ 2.0cm	2.1～ 2.5cm
スクミノン	4kg	75.0	76.0	90.9	100.0
A剤	5kg	0.0	23.5	18.8	21.4
無処理	—	0.0	6.7	4.9	2.8

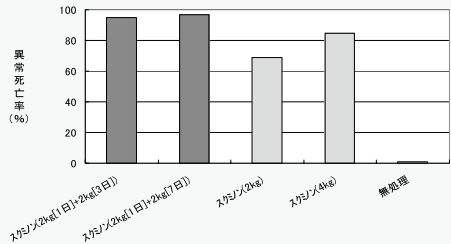
追加処理での効果

試験期間：2008年5月21日～
 試験場所：鹿児島県霧島市国分準人
 試験区：1区 75頭 15m²(3×5m)2連制
 試験条件：野外試験、マーク具使用、水深5cm
 移植日：5月21日
 薬剤処理日：5月22日
 放飼日：5月22日
 実施機関：サンケイ化学(株)

※図中の記載について

2kg[1日]+2kg[3日]…移植1日後に2kg/10aを散布し、
 移植3日後に2kg/10aを再散布したことを示す。
 2kg[1日]+2kg[7日]も同様。

14日後異常死亡率

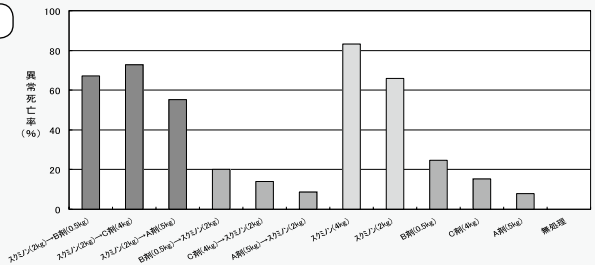


他スクミノンゴガイ防除剤との前後散布による影響

試験期間：2008年5月29日～
 試験場所：鹿児島県霧島市国分準人
 試験区：1区 75頭 15m²(3×5m)2連制
 試験条件：野外試験、マーク具使用、水深5cm

移植日：5月29日
 放飼日：5月30日
 薬剤処理日：5月30日-6月4日
 実施機関：サンケイ化学(株)

14日後異常死亡率



スクミリンゴガイの生態と防除

卵

スクミリンゴガイの繁殖時期は4月中旬～10月上旬で、夜間に用水路の壁面や稲などの水面より高いところに産卵します。

卵塊は濃いピンク色で、直径2mm程度の卵が数十～千個あり、一生に数千の卵を産卵します。ふ化までの期間はおよそ2週間(25℃)です。

成長・寿命

ふ化後2～3ヶ月で成員になり、越冬貝は翌年の春に水田に水が入ると活動を再開します。

寿命は3～5年ですが、水田では比較的短いようです。耕うん作業によって貝殻に傷をつけることがあるので、大きな貝の死亡要因になっています。

環境耐性

乾燥に強く、水が少なくなると土の中に浅く潜り、フタを閉めて水分を維持します。水がなくてもフタを閉めた状態で半年以上生存が可能です。

耐寒性は高くはないことから、関東以北で分布が広がらない主な要因と考えられています。

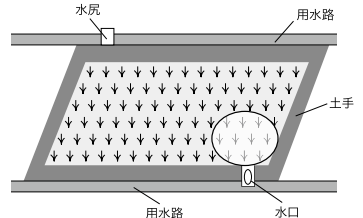
食性

主に植物質の餌を摂取しますが、動物質の餌も好みます。柔らかい草を好み、苗がごく小さいうちを除いては稲はそれほど好みません。

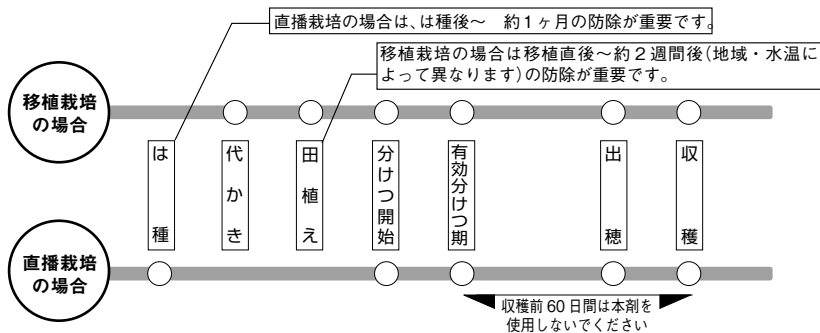
稲の被害量は、貝の密度や大きさ、稲の大きさ、水深(移植栽培の場合)や浸水時間(直播栽培の場合)などの影響を受けます。水深が浅いと被害が出にくいようです(およそ水深3cm以下)。

防除

本貝は稲苗の柔らかい時期に加害を起こすので、移植栽培の場合は移植直後～約2週間後(地域・水温によって異なります)、直播栽培の場合は、は種後～約1ヶ月の防除が重要となります。スクミノンを使用する場合は均一散布が基本ですが、水口周辺の被害が多い傾向にありますので、水口周辺は所定の範囲内で多めに散布することをおすすめします。



防除時期



本指標は、あくまで分かりやすいよう表記したものであり、実際の管理は地域・品種により異なります。使用にあたっては登録内容を確認し、収穫前日数の範囲を超えて使用しないよう注意してください。

スクミノン技術情報

使用上の注意事項

湿水状態で使用

スクミリングガイを誘引し、摂食させることで効果を発揮しますので、湿水状態で使用してください。

使用時期に注意

移植時の水温が低い場合、効果が十分に発揮されない場合があります。
(スクミリングガイの生態が要因) ⇒ 例年被害の出る時期に使用してください。

他のスクミリングガイ防除剤との前後散布に注意

スクミノンを処理する前に他のスクミリングガイ防除剤を処理すると影響を受けることが判明しています。
本貝が異常化して貝殻に閉じこもると、スクミノンの効果が十分に発揮されません。
⇒ 必ずスクミノンを先に処理してください。

水の濁りが澄んでから散布

移植後に使用する場合、水中の濁りが澄んでから散布してください。
⇒ 薬剤の上に土が覆うと効果不足になるおそれがあります。

有用生物に対する影響程度について

スクミノンの生物分類別の影響程度

分類	供試生物	影響程度
腹足類	ヒメタニシ	影響少ない
	カワナナ	影響少ない
	ヒメモノアラガイ	影響少ない
腕足類	アサリ	影響少ない
	シジミ	影響少ない
甲殻類	カイミジンコ	影響少ない
	ホウネンエビ	影響少ない
	カブトエビ	影響少ない
	淡水性カニ (サワガニ)	影響少ない
	アメリカザリガニ	影響少ない
両生類	ニホンアカガエル (オタマジャクシ)	影響少ない
	ヌマガエル (成体)	影響少ない
	アカハライモリ (成体)	影響少ない
昆虫綱	シオカラトンボ (ヤゴ)	影響少ない
	ヒメガムシ	影響少ない
	シマゲンゴロウ	影響少ない
環形動物	イトミミズ	影響少ない

実施機関: サンケイ化学(株)